

東京・葛西城址かさいじょう (2)

1 所在地 東京都葛飾区青戸七丁目

2 調査期間 二〇〇三年(平15)五月

3 発掘機関 葛飾区教育委員会

4 調査担当者 永越信吾

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 中世〜近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

葛西城址は中川右岸の自然堤防上に立地する中世の城館跡である。調査地は、主郭の西部にあたる場所で、これまでの調査で主郭を囲む堀の一部を検出している。この堀は、二〇m以上に及ぶ。今回の調査では内面すなわち主郭側に立ち上る部分を検出した。調査範囲での深さは約一mであるが、従前の調査から最深部は二・五m以上になると推測される。



(東京東北部)

木簡は、この堀から出土したものである。堀からは、他に一六世紀の瀬戸・美濃陶器や在地産土器が出土しており、木簡もこの時期のものと考えられる。

8 木簡の积文・内容

(1) [V□□]

138×21×2 032

頭部に切り込みを有する荷札状の木簡である。墨痕が認められるが、积読できない。

9 関係文献

葛飾区教育委員会『葛西城 XXIV』(二〇〇五年)

(永越信吾)

